

2020 年度第 2 回日本学連幹事会議事録

【日程】 2020 年 9 月 26 日(土) 14:30～18:30

【場所】 長野県駒ヶ根市 市民交流活性化センター アルパ 大会議室
(コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン参加も可とし ZOOM を利用した)

【議事録作成者】 山田 基生 (東北大学)

【目次】

1. 2020 ICM の枠計算について.....	3
2. 2021 ICL の枠計算について.....	3
3. 技術委員会について.....	5
4. 後援大会申請.....	6
5. 新規地図作成事業の承認.....	6
6. 来年度以降のインカレスプリント開催について.....	6
7. インカレミドル・リレー後夜祭・講習会について.....	11
8. 地区学連活動報告.....	11
9. 学連登録の中断について.....	12
10. 新規地図作成事業に関する規則について.....	12
11. 理事会報告.....	12
12. 各部局活動報告.....	12
13. 次回幹事会について.....	12

2020年度第2回日本学連幹事会議事録

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	理事	東京大学卒
木村 佳司	理事	山口大学卒
谷野 文史	幹事長	筑波大学
西平 楽	会計	東北大学
菊地 美里	事業部長	東北大学
片岡 佑太	事務局長	大阪大学
金澤 晴樹	事務局員	京都大学
山田 基生	広報部長	東北大学
永山 遼真	広報部員	筑波大学
伊部 琴美	普及部長	名古屋大学
寺田 直加	渉外部長	東北大学
佐藤 珠穂	会計監査	法政大学
倉地 草太	会計監査	北海道大学
棚橋 一樹	技術委員会担当理事	名古屋大学
谷川 友太	技術委員	名古屋大学卒
原 柊斗	北東学連幹事長	岩手大学
滝澤 伊織	北信越学連幹事長	新潟大学
若月 俊宏	関東学連幹事長	東京工業大学
栗生 啓介	東海学連幹事長	名古屋大学
岩田 慈樹	関西学連幹事長	京都大学
牧島 滉平	中九四学連幹事長	広島大学
遠藤 匠真		京都大学大学院

（注1）議論の本筋と関係のない会話は適宜削除している。

（注2）議論の流れを明瞭にするために、一部発言の順番を入れ替えている。

（注3）音声機器不具合により一部録音ができず、概要のみの掲載、割愛を行なっている。

2020 年度第 2 回日本学連幹事会議事録

1. 2020 ICM の枠計算について

概要： 2020 年度インカレミドルの枠配分方法について議論した。採決の結果、中止となった昨年度インカレミドルと同様に 2018 年度のインカレミドルの結果を用いて枠配分を行うこととなった。

谷野	【資料 1-1】読み上げ 【資料 1-1】「議題 1. 2020ICM の枠計算について」の議論概要
片岡	ミドルはミドル、ロングはロングで枠配分を行うのが重要だと考えている。2019 年度のインカレミドルで使われるはずであった枠配分をそのまま持ち越すのが妥当ではないか。
谷野	2018 年度インカレミドルの結果を用いて枠配分を行うということか。
片岡	そうである。
谷野	個人的には A 案の 2019 年度のインカレロングの結果を用いて枠配分を行うのが良いと考えている。今年参加できない大学がある以上、各地区の不平等がどうしても生じてしまう。すでに北信越学連に関しては出られない学校があり通常通りの枠計算はできないので、2020 年度のインカレロングを用いるのは良くないと考える。
谷野	技術委員として本日参加していただいている谷川氏から意見をお伺いしたい。
谷川	前回の幹事会または総会で今年のロングの結果を用いてインカレミドルの枠を計算することが決まっているので特に何もなければその決定に従うべきである。しかしその時と状況は変わっているので考え直すのも一つだと考えている。
谷野	他に意見がないようなので次の 3 つで採決をとる。 A 案 2019 年度インカレロングの結果を用いて枠計算を行う B 案 2020 年度インカレロングの結果を用いて枠計算を行う C 案 2018 年度インカレミドルの結果を用いて枠計算を行う
	A 案 3 人 B 案 0 人 C 案 10 人 よって今年度の枠配分は 2018 年度インカレミドルの結果を用いて行うことに決定した。

2. 2021 ICL の枠計算について

概要： 来年度インカレロングの枠配分方法について議論した。北信越学連について主要構成大学が新型コロナウイルス対策による課外活動規制によりインカレロングに参加できない可能性が高いため、一度北信越学連内での意見を聞いた上で再度議論を行うこととなった。

2020 年度第 2 回日本学連幹事会議事録

谷野	<p>【資料 2-1】読み上げ</p> <p>【資料 2-1】「議題 2. 2021ICL の枠計算について」の議論概要</p>
佐藤	ミドルはミドルで決めるべきという理由で議題 1 の枠配分を決めたのならば、2020 年度インカレミドルの結果を用いて枠計算を行うという C 案は整合性がなくなるので避けた方が良いと思う。
栗生	北信越学連の大学が特にインカレ参加が厳しい状況にあるので、厳しすぎる地区学連の枠配分を昨年度のまま(2019 年度枠数)にして、60 枠から差し引いて残りの地区学連に再分配するのはどうか。
栗生	北信越学連は 2019 年度の枠を繰越すということである。
谷野	この案では、今年の北信越の枠は 3 つであるから残りの 57 枠を残りの地区学連で配分することになる。
栗生	今の案に補足だが、この案は北信越が承認した場合にのみ適用でき、他の地区学連から要望があればその地区学連にも適用すべきだと考えている。
谷野	北信越学連幹事長である滝澤の意見を聞きたい。
滝澤	学連枠のみで優遇されている感じもないので今年の結果を反映させる形でも問題ないように思う。女子は新潟大学の選手層が特に厚いが、男子に限っては出られる大学である金沢大学と新潟大学が拮抗しているので問題はないように思う。
谷野	技術委員の谷川氏の見解もお伺いしたい。
谷川	A 案、B 案、C 案が並列のように出ているが、規則通り(B 案)でいけないのか議論してから、必要であれば代案を出すというように考えた方が良くはないか。
谷野	例年通りの計算方法でいいのかという点に関して基本的に鬼門になりそうなのは北信越学連だけのように思う。
谷野	北信越学連から合意が取れば例年通りの枠計算で良いように思う。北信越学連内で簡単に合意を取ることはできるのか。
滝澤	どのくらいの猶予をもらえるのか。
谷野	次の総会(インカレロング前日)はどうか。合意が取れた場合は例年通りの方法を用いて、取れなかった場合の代案を今から考えたいと思っているがどうか。
滝澤	大丈夫です。
谷川	北信越の合意が必要とのことだが、規則が前提にあって、北信越側から今回この規則通りに枠計算を行うと自分たちが不利になるという意見がないのであれば特に日本学連側から伺いをたてることはないのではないか。
谷野	例えば新潟大学内で枠に関する話は何かしたか。
滝澤	OB からは話はあがっていたがそんなに話には出ていない。
谷野	規則通りの枠配分を前提として、意見が出てきたら対応するという形でも良いと思うが、現状を踏まえて日本学連として全体を見て考えると、北信越学連の合意をとって話を進める形も悪くないように思う。
棚橋	先ほど北信越学連幹事長が話してはくれたが、北信越学連の選手権出場者の枠に対する考えが見えていない。

谷野 谷野	つまり一度北信越学連に話を持って帰ってもらってから決めた方が良いという意見で良いか。
棚橋	そうである。
谷野	2人の意見を聞いてどちらの意見も納得できるが、日本学連として現状規則通りの枠計算を行うつもりであることを説明して、もし反対意見があれば対応する形をとりたいと考えている。滝澤にはこの議題を北信越学連に持ち帰って話をしてほしい。その結果をもって判断をしたい。
滝澤	選手権に出場する選手の意見の尊重か、北信越全体としての枠を考えるかどちらに重きを置くべきか。
谷野	エリートに出場する選手は4年生が多く、3年生以下の意見も聞きたいので北信越としての意見を聞くべき。
滝澤	わかりました。

3. 技術委員会について

概要: 技術委員の谷川氏を交えて、技術委員会の仕事を明瞭化し持続化できる体制を構築することを目指すための意見交換を行なった。引き続き技術委員会とやりとりを行い、内容をつめていく。

谷野	この議題はより良い技術委員会を目指すための日本学連と技術委員会の意見交換会をイメージしているので、積極的に意見を発言してほしい。
谷野	理事会承認はまだされていないが、技術委員長が大西氏から谷川氏に変わっていただく予定である。それにあたってうまく機能していなかった技術委員会の事態の再編を日本学連としても考え、より良い関係を築いていかなければならない。
谷野	【資料 3-1】読み上げ 【資料 3-1】新しい技術委員会へ
谷野	谷川氏から技術委員会側の意見もお伺いしたい。
谷川	現技術委員長である大西氏が忙しく対応できず仕事がなかなか回らなかったため後任への引き継ぎや技術委員会の見直しの話が出てきた。まず組織をどうするかについては誰がいるのかを確認したい。また【資料 3-1】についても初めて目を通したので細かい部分まではよくわからない。
谷野	技術委員の方にも【資料 3-1】を展開しようと思う。技術委員会理事の棚橋を中心に技術委員会の方とやりとりを行い、少しずつ話を進めていきたい。
山川	全日本大会後 JOA と技術委員会との合同合宿に関して JOA 側からは広報されているが日本学連として広報はまだしていない。日本学連の広報体制はどうなっているのか。
谷野	正式な情報がまだあがってきていない。
山川	JOA 側からは学連合宿と書かれて広報している。
谷野	全日本ロングの翌日にリレー競技を行なって、それを学連合宿としようという話が技術委員会から出てきたが、それに関しては練習の機会がないならば

2020 年度第 2 回日本学連幹事会議事録

	学連合宿である必要はないという理由から提案を却下した。一方で技術委員会から再度案を練り直して、きちんとした合宿ができるように現在準備をいただいている。それを全日本ロングの後に学連合宿として行う予定であるが要項等はあがってきていない。要項等の情報を日本学連側にも流すよう連絡しようと思う。
山川	ちなみに 2019 年度インカレミドル・リレーのコースを学連合宿兼山リハリレーとして提供する予定であるのでぜひ参加していただきたい。

4. 後援大会申請

概要：第 25 回千葉大大会の後援申請を承認した。

片岡	千葉大大会の後援申請について許可するか決を取りたい。何か質問はあるか。 【資料 4-1】第 25 回千葉大大会後援申請書
谷野	ないようなので決を取る。
	14/14 人で承認
片岡	他の大学についても申請をいくつか受け取っているが、今回コロナの影響で日程が変わったり、競技内容を変更することがあるかもしれない。一度後援申請さえ取っていただければ細かい修正はその都度言っていただければ再度申請は不要であるので、日程等変更があった場合には事務局にメールをしてほしい。
谷野	総会でも周知してほしい。

5. 新規地図作成事業の承認

概要：茨城大学より提出された新規地図作成事業計画書の内容を承認した。

谷野	7 月に開催された幹事会で茨城大学から新規地図作成事業の計画書が提出された。一方で計画書に関して予定事業費用額、想定売り上げが書かれておらず再提出を求めた。それに対して承認手続きと質疑応答を行いたい。 【資料 5-1】を参照してほしい。 【資料 5-1】茨城大地図作成事業別則申請書
谷野	質問がないようなので採決に移りたいと思う。
	14/14 人で承認
山川	指導者の名前が抜けていたが、指導者は宮西氏である。

6. 来年度以降のインカレスプリント開催について

谷野	山川氏の資料については後ほど本人から説明していただくが、インカレスプリントの渉外は大変でありリソースが割かれている。日本の運営体力、山川氏の体力を考えるとインカレスプリントを継続していくことはかなり厳しい状況にある。そこで学生として今後のインカレスプリントをどうしていき
----	---

	いかを考えていただきたい。
山川	以下【資料 6-1】 インカレの将来の開催について 参照 資料の基本資料概念図を見て欲しい。2 年程度前からしきりに学連幹事会や総会でこの表を出して説明し始めているが、この表に感化されて来年度のロングを山川氏の渉外でないところで実施しようと 2 年前から動き始めている者がおり何度か下見も行なってもらっている。しかし挫折続きであると聞いている。
山川	前回で 5 回目であり、5 年経ったらインカレスプリントガイドラインを見直す予定であった。インカレスプリント・ロングで同じ会場で実施するとガイドラインで定めて始めたが、実際に同じ会場でスプリントとロングを開催できたのは福井の施工大会、第 1 回大会富士見高原、第 4 回大会駒ヶ根のみである。第 2 回天平の丘公園、第 3 回上石津集落、第 5 回中津川公園に関しては別々であった。チャート図に沿って山川氏の渉外でないところで秋インカレを開催できる場所を探そうと活動を始めた有志たちも最初はスプリント・ロングで探し始めたが、スプリントとロングをセットで開催できるテレインはわずかしかなかく苦労しているという。
山川	また集落スプリント、スタジアムスプリントなど先進的なことに取り組んできたが、集落スプリントも失敗から生まれたものであり、その年の本当のインカレスプリントの候補地は 138 パークであった。スプリント向きのテレインであったが、子供が多く、観光地であったため断られてしまった。しかし岐阜県の上石津でロゲイニングを行なったという情報を得て、渉外を行なった結果、開催できたというわけで失敗の産物であった。
山川	今年に関しても宿泊ができない学校があるとのことでインカレスプリントを断念したが宿泊の問題が解消されても断念していたように思う。ロマンチック村はコロナウイルスの影響でサーカス団が居座り、渉外が当初の設計とは変わってしまった上に、そもそもインカレスプリント適地ではなく競技性が低いとのことからスタッフの士気もあがっていなかった。僕自身は渉外の大変さを経験しているのでとりあえず渉外をとることからアプローチしたのが正直なところである。ロマンチック村はオリエンテーリングより危険なシクロクロスの全国大会を開催していることから渉外を取りやすいのではないかと考えたが、結局、スタッフからすれば競技性が低いとのことで障害が失敗だったのではないかと責められたこともあった。トリガーとなったのは春インカレが延期となった 3 月にスプリントの渉外をしなければならずなんとか時間を作ってスプリントの渉外を行い、その後病院に入ったら命に関わる状態であった。その時から血管の調子が悪く、スプリントの渉外のストレスにより結果として体を壊してしまった可能性が高いと考えている。これ以上学生のためにインカレスプリントに汗を流すのは無理なのではないかと考え、入院中悩んでいたのがこの議題のきっかけである。
谷野	山川氏の体調の問題もあり、今後のスプリント渉外はなかなか難しいことが現実問題として存在する。次に山川氏に今後計画について説明していただく。
山川	幹事会、総会で決定することになるが、いきなり決めてしまうような議題で

山川	はないので十分に議論を尽くしてから結論を出したいと思う。今日も結論を出すつもりはないが、私自身の考えとしては今年の 12 月のインカレスプリントをもって単独のインカレスプリントは最後にしようと考えている。これはインカレスプリントをやめようということではなく別の形で開催した方がよいのではないかと考える。具体案としては全日本スプリントとの完全融合である。
山川	全日本スプリントの方が歴史は長く、第 2 回全日本スプリントから学生をどのように融合させるかを JOA 側においても議論にあがっていた。また学生表彰やインカレとの融合という話も過去にあがっていた。過去はインカレと全日本大会を融合させるのは意識の上で乖離が激しく、無理だろうという判断だった。その後、実験大会や施工大会等を行なって学生の啓蒙に努めた結果、現在スプリントもロングやミドルと同等の水準の大会を開催でき、スプリントがより定着、スプリント界のレベルの向上が起こった。2019 年にはキャンパス 0 ツアーも実施された。
山川	今年インカレスプリントがないことに関して、スプリントに対する意識をセレや学生のみではなく、フォレストの大会はインカレに関しては手加減された大会である。危険に対するケアが要因となっており十分にパトロールを配置した上で実施している。一方スプリントに対してはそういった危険性はなく、実際、高校生が全日本大会 2 位に入ったという事実もあり、ものすごくリソースを割くのに学生だけの狭い世界で競うことに意義があるのかと思うのが発想の出発点で、今のスプリントに対する取り組みを維持したまま別の形態を模索した方がよいのではないかとすることで議論を切り出した。実際に切り口としてはスプリントセレのためにツアー戦を用意し、全日本 E 権が公認大会だけでなくランキング対象大会も加わるということを実行している。それを加えてもらい全日本大会と同じ場で競うのがよいのではないかと考えている。僕自身は生きていてこそだと思っているのでスプリントの渉外は今後一切やらないというのが基本路線にある。ロングに関してはまだ実施するつもりであるが、スプリントに関しては自分の引き出しから提案することもないし、そこで苦勞するつもりもない。
谷野	大きくまとめるとスプリント渉外は厳しく今後のことを考えると全日本スプリントと融合してはどうかというのが意見だったように思う。この議題に関して遠藤氏が理事として関わっていただける予定なので遠藤氏からこれまでの学連の経緯やご自身の意見をお聞きしたい。
遠藤	寝耳に水である。私は 2015 年入学なのでインカレスプリントが富士見で初めて単独開催されてから現役の間はインカレスプリントがあった恵まれた世代であったのでこういった話をするのは心苦しいが、方向性としては仕方ないように思う。
遠藤	山川氏ほど渉外を行なってくださる方がいないのであればインカレスプリントの単独開催は無理だと思う。駒ヶ根のようにスプリントとロングを同じ場所で開催できるならまだしも、完全に分割せざるを得ない場合も多いので厳しいのではないかと。OB の運営側の事情であり現役学生には関係ないかもしれないが、いずれ現役の皆さんもゆくゆくは運営に回ることを考えてもらわなければならない。単独のインカレスプリントがあることは望ましいが、運営

2020 年度第 2 回日本学連幹事会議事録

遠藤	<p>者として実施してみると運営の厳しさを実感した。</p> <p>まだ5年しかやってはいないが毎年インカレスプリントは競技上の課題がでる。実行委員会は毎年変わり、うまい具合に完全な継承がなされるとも限らない。</p> <p>いわばボランティアベースの運営では荷が重すぎるように思う。ここまで説明した運営コスト的な意味で非現実的であるのが大きな1つの意見である。</p>
遠藤	<p>個人的には山川氏の提案する形にならざるを得ないように思う。ただキャンパス0 ツアーに関しては35周年記念事業として行なっただけなので持ち上げてあてにされると困惑してしまう。</p>
谷野	<p>幹事長としての意見も述べようと思う。</p> <p>実は今年度のインカレスプリントも全日本スプリントと融合しないかという打診があった。物理的に準備が間に合わないという理由で最終的には断った。その時に自分自身でも考えたのだが、遠藤氏のいう通り、リソースとしてはかなり厳しく、来年度のインカレロングまで残り1年となり、もうそろそろ決断しなければならないということは考えている。一方で学生として、スプリントが好きで取り組んできた身として考えるとインカレスプリントは近年定着してきており、年々スプリント界の学生のレベルも上がってきているように思う。その中で、学生だけで競うのはインカレの面白さであり、1競技者としてはそちらを望んでいる。ただし現実問題がある。我々は日本学生オリエンティアの代表であるので今後どうしていきたいかを考えなければならない。</p>
谷野	<p>意見を聞きたいがすぐには出てこないと思うので論点を整理したいと思う。</p>
谷野	<p>来年度に関してはいつまでに決定すべきか。</p>
山川	<p>3月である。</p>
谷野	<p>どうしても学生に聞くとインカレスプリントを単独で開催して欲しいという意見が多数である。</p>
山川	<p>やってくれれば嬉しい、あるべきだという意見だけ述べ何一つ動かない人が多い。実際裏で動いている人間は非常に大変である。私自身は裏の仕事が好きであったのでこれまでやってきたがこれ以上やると死ぬと思ったのでスプリントの渉外はやめようと決断した。</p>
山川	<p>皆の感覚と異なっていることを述べたい。100,200人参加のスプリントは渉外も比較的簡単であるが、500,600人となるとハードルが上がる。特に東海セレや関西セレは小さく開催できるが関東セレではインカレスプリントと同様の問題を抱えており、テレインが限定されるという問題が毎年繰り返されている。その中で地域クラブのリソースを食いつぶしながら開催しているのが現状である。地域クラブからは学連のスプリントセレは地域クラブの資源を食っているとの声も聞かれる。特にセレクションでこれ以上リソースを割くのをやめたいと考えている。谷野が述べたように学生の中でやっていくという価値観も大事だとは思いますがどこかで折り合っていないとちょっと難しいように思う。いきなり今日結論を出すことはしないが時間をかけて決めていきたい。100,200人規模のスプリント大会と500,600人規模のスプリント大会との渉外は全然違うということを入れておいて欲しい。</p>
谷野	<p>セレのリソースに関していうと今年のインカレスプリントは予選決勝方式を</p>

谷野	導入しており、各地区学連の負担を減らせるように思う。将来的に見込みも含めて実験台として開催できればと思う。これに関しては今日決まることは多くないように思う。ただ、何かしら感じたことを聞きたい。
谷野	インカレスプリント運営経験者の谷川氏からの意見もお聞きしたい。
谷川	山川氏のおっしゃる通りに今後単独開催することが不可能なのかを確認したい。例えばオリエンテーリング運営を仕事としてやっている方々に仕事としてやっていただきたくことはできないのか、もしくはそのためにインカレ全体で予算を組み直す可能性はないのか、選手権のみの開催といったような大会規模を縮小して行うという考えかたもあるのではないかと思います。全日本と融合するとなるとインカレというよりか全日本大会で学生表彰を行うという形になるのではないかと。もちろん日本学連として選手権者を表彰すれば学生選手権と言えが、これまでやってきたものとは大分異なるように思う。
山川	僕の構想通りに進むとすれば1つ莫大な作業がある。それはルール整備である。全日本と融合する時には公平である、公正であることが大事な観点であり、そのことが従来の地区セレクション、インカレ本番のみと全日本大会のエリート選考基準とは全く異なるのでルールをすり合わせるのにかなりの時間を割くことになるということを入念に入れておいて欲しい。方向性を決めてからもルール整備のためだけでも数ヶ月かかるというふうに認識している。そのことも前提として考えて欲しい。
谷野	どう結論付けても細かい作業は出てくるとも思う。選手として、学生の代表として物事を決める日本学連の幹事として意見を述べて欲しい。
佐藤	正直、スプリントには興味がない。女子はそのように思う選手が多いと思う理由の1つに男子ほど走力が拮抗していないという点が挙げられる。女子の場合は特にスプリントは走力がある選手が勝ちやすい現状ではあり、スプリントに興味を持っていない選手が多いのではないかと。もしスプリントがインカレロングと別日に開催されたとしても遠征してまで参加しないように思う。ただインカレスプリントを求めている選手が多いのも事実であり、実際インカレスプリントがなくなって落ち込んだ選手を見ている。自分の中で結論は出ていないが、ロングとの併催が難しいのは承知の上でインカレスプリントを600人規模で開催するなら単独よりも何かにくっつけた方が参加者も集めやすいように思う。セレを各地区で行い100人規模のスプリントにできるのならそちらの方が引き受けてくれる人も多いように思うし、エリートだけでのインカレスプリントにして併設もありますよくらいの方が続けていく上では良いように思った。
若月	全く意見が固まっていないが、現状のまま続けていくのは難しいということで様々な方向で探っていると思うが、全てバラバラで単日開催になると、運営者の負担が増えるのではないかと。運営者の負担を減らすことに重点をおいて考えるべき。運営を毎年続けていくという点で毎回無理が生じていると今後続けていく時にどこかで途切れてしまう気がする。今後の方針を変える場面にあるのなら運営する側の健全化を重きにおいた方が、今後長く続けていくうえでは重要になっていくのではないかと。
谷野	2人の話を聞いて、もう少し考えたいという意見が2人ともあるように思っ

谷野	た。持ち帰ってそれぞれ考えて欲しい。総会の前後で意見共有をしたい。来年度幹事長を含めた上で動いた方が良い議題でもあるので私自身を含めて持ち帰り検討にしたい。グーグルフォームでアンケートを後日取りたい。それを元に全日本委員会と話を進めたい。
遠藤	私が入学した時はパーク 0 とスプリントの区分けも特にされていなかったがここ 5、6 年でスプリントの評価基準が定まってきて、その基準を満たすインカレスプリントの開催が求められている。大会の数が増えることで質の良いテレインは減っていくことは頭の中に入れておかなければならない。また意見でも出たが、選手権だけのインカレスプリントとなると大半の学生はお金を出してくれる人という捉え方になってしまう。ただしこれは学生スポーツでは一般的なことである。他のインカレとは異なるスキームとなる。また OB として言わせていただくとセレが 1 つ増えると負担がかなり増えるということも考慮に入れて欲しい。こういった現実問題があることを知っておいてほしい。
谷野	最終的には学生にもアンケートをとりたいと考えている。
谷野	持ち帰って再度議論しなおしを計ろうと思う。

7. インカレミドル・リレー後夜祭・講習会について

概要：昨今の新型コロナウイルスの影響を受けて、例年インカレミドル・リレー後に開催される後夜祭・講習会を今年度実施するかどうかについて議論した。現状を踏まえると後夜祭の開催は厳しいが講習会は実施可能ではないかという意見でまとまった。一方で後夜祭を開催したいという意見も多く聞かれ、例年とは異なる形での後夜祭の開催案も含めて事業部長である菊地を中心に再度検討することとなった。

8. 地区学連活動報告

原	【北東学連】幹事会や北東学連加盟員全体でのアンケートをもとに選手権出場者の決定方法を決め、去年のセレクションを用いてインカレロング選手権出場者を決定した。また、セレクション不成立時の対応策について規約にまとめる予定である。
若月	【関東学連】インカレロング選手権出場者の選出を行なった。今後は 11 月に関東学連総会を行う予定である。
滝澤	【北信越学連】9/9 にインカレロング選手権出場者をオフィシャルに付き添ってもらいながら選考した。議題 2 であがったインカレの枠に関しては来週までに議論したい。
粟生	【東海学連】9/13 に東海学連ロングセレクションを柊の湖に行い選手権出場者を決定した。なお活動停止校については臨時総会の決定事項に基づいて枠を割り振り、選手権出場者を決定した。ミドルセレについては関西学連と合同で開催する予定である。
岩田	【関西学連】9/6 にロングセレ、9/13 にスプリント大会を行なった。
牧島	【中九四学連】関西学連に併催する形でセレクションを行う予定であったが、大学の規制によりセレクション併設を取りやめ、総会にて選手権出場者

	を決定した。女子の枠に関しては返上した。今後に関しては今年中の総会の開催を予定している。広島大学のインカレロングの参加可否に関しては決まり次第 slack にて連絡する。
--	---

9. 学連登録の中断について

概要：現在日本学生オリエンテーリング連盟規約により競技者登録は、「初めて競技者登録された年度から4年以内であること」と示されている。一方で休学や留学等により大学を離れる学生に対してもこの規則は適用される。これを解消すべきかどうかについて議論を行った。解消すべきという意見が聞かれる一方、留学はあくまで個人の予定でありインカレ等に被った場合は仕方ないのではないか、学連登録を中断できても合計で4年間になるようにすべきといった意見も聞かれた。本幹事会では結論はまともらず次回幹事会へ持ち越しとなった。

10. 新規地図作成事業に関する規則について

議論内容については【資料 10-1】を参照。

【資料 10-1】新規地図作成事業およびトレイン管理関係幹事会資料

11. 理事会報告

特に動きはない。

12. 各部局活動報告

谷野	【幹事長】日学枠選考委員会において日学枠でのインカレロング 2020 選手権クラス出場者の選考を行なった。
伊部	【普及部】新歓に関するアンケートを渉外 ML にて実施した。
山田	【広報部】Twitter, HP の更新を行なっている。議事録については現在作成中である。
西平	【会計】日本学連のお金の管理を行なっている。インカレロング実行委員会に 400 万円の貸付を行った。2019 年の決算報告書、今年度の決算報告書の作成を行っている。

13. 次回幹事会について

概要：例年通り年明け 1 月頃に幹事会を実施するが新型コロナウイルスの影響も考えられるためこの場での日程の決定は行わない。来年度以降のインカレスプリント開催議論を含めた臨時幹事会を後日 zoom にて行う予定である。